

勉強会のお報せ

今回は神楽坂サロン主催ではなく、水島が勉強会を自主的に行います。今までの勉強会の締めくくりと言える内容です。お時間が許せば、ご参加ください。今回は、水島自身が準備できないため、Zoomでのリモート配信は致しません。会場にお越しください。ただし、会場の事情により、参加者は10名程度が限度です。参加希望が定員以上になった場合、そうすると水島本人には嬉しいことですが、抽選で参加者を限定いたします。9月20日で申し込みを締め切ります。抽選の結果は、ご自身に連絡を差し上げますので、申し込みの際にご自身のメールアドレスを書いてください。参加ご希望の方は、水島までご連絡ください。内容は以下の通りです。

\*\*\*\*\*

\*

ロマンチック街道のまちづくりから  
重要伝統的建造物群保存地区の景観が学べること

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

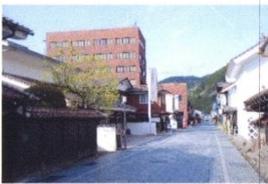
\*\*\*\*\*

和辻哲郎の「風土的形象とは主体的な人間存在の表現」が的確な街並みは日本の各地に存在します。しかし、その良好な街並みの中で、自分勝手な建設が為された結果の不調和な建設物が不協和音を奏でたり、文化的佇まいとして整った街区に、全く不釣り合いな街区が隣接して、区域全体の調和を乱しています。都市または町は、そこで市民が生活を営むことによってはじめて成立し、市民が生活を営む場所である限り、そこでの新たな建設と開発は不可避ですから、古い街並みの中に新しい建設を避けることは出来ません。その建設と開発行為は、常に都市環境を改善するという目的で為されますから、周囲の環境を劣悪にする恐れのある建設は許可されるべきではありませんが、日本では、周辺の住民の生活権を無視した建設によって軋轢が生じています。この根本的問題は、都市政策行使には「国民は誠実に協力すべき」と謳われ、行政が主導し、国民はそれに協力せよという構造ですが、企業の「建設の自由」を優先した市民の意思を無視した開発です。

これらの日本のまちづくりの問題について学べる核心が、ロマンチック街道の「まちづくり」にあります。ローテンブルグにしてもフュッセンにしても、千年以上も前の中世から培われてきた環境の中で、近代化に対応できる改築は色々な要素に絡んで困難であるにも拘らず、あるいはそれ故かもしれませんが、古いものを残す不便さを承知で、その生活文化を継承してきた街並の保全に力を入れ、「如何にしたら住民にとって街が住み良くなるか」ということを基本とした、先達の伝統と文化を継承しながら、現在の生活文化を将来に伝承するための街づくりの手法を、明確に示してくれます。景観法と建設指針計画(BAULEITPLANUNG)、文化財保護法と記念物保護法(DENKMALSCHUTZ)を比較しながら、「町というのは住民が快適に生活できて初めて町と言える」という至極もったもなローテンブルグのまちづくりと、民主主義の基本形で実務的な例と言えるロマンチック街道最南端の町フュッセンの街づくりを参照して、日本の問題点の解決法のヒントを説明します。



飛騨高山



津和野



ローテンブルグの街並み



フュッセンの街並み

水島 信 建築家：ドイツ連邦・バイエルン州建築家協会登録

日時：2025年10月9日 木曜日 開場 17:30 開始 18:00

報告：水島 信

会場：〒162-0825 東京都新宿区神楽坂3-2-5 SHK ビル 5F

後援：景観と住環境を考える全国ネットワーク

申し込みと連絡先：[mm-aa@t-online.de](mailto:mm-aa@t-online.de)

このメールアドレスで交信不可能である場合は [mm.aa@icloud.com](mailto:mm.aa@icloud.com) に送信いただけますか。

追：会の後で、懇親会をご希望なされる方は、その旨、お知らせください。